

一億円を有効活用

「ふるさと構想」(案) 決まる

最近、毎日のようにマスコミ等で取り上げられ、話題となっている「ふるさと創生」は、全国市町村の地域づくりのため、国が全国市町村に一律一億円(昭和六十三年年度、二千万円・平成元年度、八千万円)ずつ交付するものです。

町では、この一億円を有効に活用するため「清く明るい豊かな町」を基本理念に、各集落の行政委員さん等の意見を参考にしながら「自ら考え、自ら行う地域づくり」事業の計画(案)を作りました。

この計画は、今後の「まちづくり」及び「ひとづくり」として推進していきます。

自らの手で

道路舗装

昭和六十三年年度は、住民の皆さんからもっとも要望の強いまちづくり事業である道路環境整備を中心にした町民自らが参加し、自らの手で実施する集落内道路整備(直営舗装)事業を進め、早期に生活路線の完全舗装を目ざします。

引き続き集落内道路整備を推進するほか、生活雑排水路の整備を行い、生活環境の改善に努めます。

また、路肩等に花の播種を行うなど、道路環境美化運動を展開する他、下水道エリアマップも作成します。

地場産業の育成については、

国の産地指定作物の秋冬ネギの生産出荷の安定的拡大と経営の安定を図るため野菜安定対策事業への加入を推進し、産地指定作物の育成を図っていきます。その他、サケの回帰するふるさととの川

生活環境の改善

平成元年度

平成元年度の「まちづくり」は、昭和六十三年年度に引

栗山川のイメージアップと併せて、水産資源の有効活用を編み出すため、サケ親魚の調理方法の研究活動を推進していきます。

情報化への対応と コンピューター利用 教育の充実

「ひとづくり」は、今後ますます進展する高度情報化社会へ対応できる人材を養成するため、小、中学校にパーソナルコンピューターを導入し、個別学習の助長と多角的指導の推進に役立てていきます。

その他、国際化への対応として語学指導を行う外国人講師の招致を図ります。

また、国際感覚を備えた人材の養成を図るため、青少年海外研修事業を実施します。

一方、町民の親睦と地域連帯意識の高揚を図るため、『ふるさとまつり』の定着化を推進します。

「自ら考え自ら行う地域づくり」事業

(単位：千円)

| | | 事業名 | 昭和63年度 事業費 | 平成元年度 事業費 |
|-------------|---------------------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------|-----------------|
| ひかりまちふるさと構想 | まちづくり | 道路環境整備 (道路舗装事業) (道路環境美化運動) | 20,000 | 40,000 1,000 |
| | | 生活環境整備 下水道エリアマップ作成事業 | | 9,527 1,500 |
| | | 地場産業の育成 秋冬ネギ価格安定事業 サケ親魚調理方法普及事業 | | 2,000 100 |
| ひとづくり | 未来を担う人材の育成 外国語教育の充実と国際交流の進展事業 青少年海外研修事業 | | 17,000 4,316 2,200 | |
| | 新しいふるさと分化の創造 ふるさとまつりの拡充 ふるさとの正しい理解と郷土愛の育成事業 | | 4,000 3,500 | |

これらの事業の他にも、すばらしい事業がある時は、できるだけ実現できるようにしたいと思います。